



Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

急性期の致死的不整脈、ICDまでの橋渡し
着用型自動除細動器(wearable ICD)

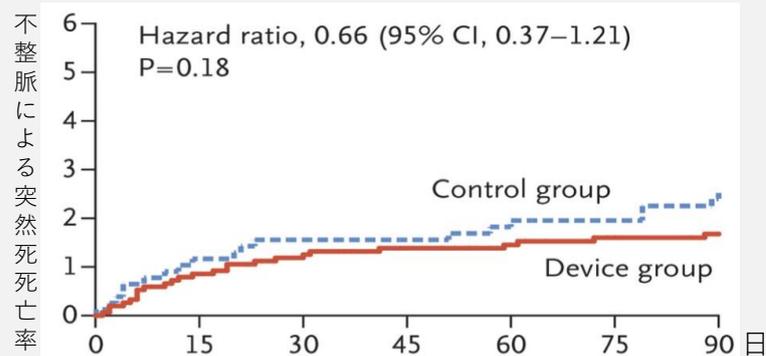
心臓突然死の一次予防におけるICDの有用性は広く認められています。しかし、その有用性が明らかとなっていない急性期症例への対応が課題となっています。急性虚血や心不全後の早期において致死的不整脈イベントを指摘されています。しかしガイドライン上、ICD適応までの期間にギャップがあり、その間に致死的不整脈イベントのリスクに晒されている患者様が生じています。

そこで、着用型自動除細動器(wICD)が急性期の致死的不整脈による突然死を予防できる橋渡しの存在となっています。wICDを装着した25人のうち9人が致死的不整脈を認め、そのうち4人に適切なショックが作動し、不整脈による突然死死亡率の低下につながりました(1)。このことから装着時間が長いほど死亡率は減少する(2)と報告されています。

当院では患者様の突然死を予防するためにwICDを導入しております。今後も患者様に安心できる医療を提供できるよう邁進して参りますので、何卒よろしくお願い致します。



着用型自動除細動 (wICD)

(1) *N Engl J Med* 2018; 379: 1205-1215.(2) *Circ J* 2014; 78: 2987-2989

文責 循環器内科 増田 暉

スタッフ紹介 Vol.32



循環器内科
非常勤医師
1999年新潟大卒

相澤 義泰

2018年より非常勤として、循環器内科外来およびペースメーカー外来を担当しております。病院が着実に成長を遂げる姿に深く感銘を受けています。新潟市出身で、学生時代はスキーに熱中していましたが、現在はショートスキーを気軽に楽しんでいます。

過去のハートチーム通信はこちら →

